

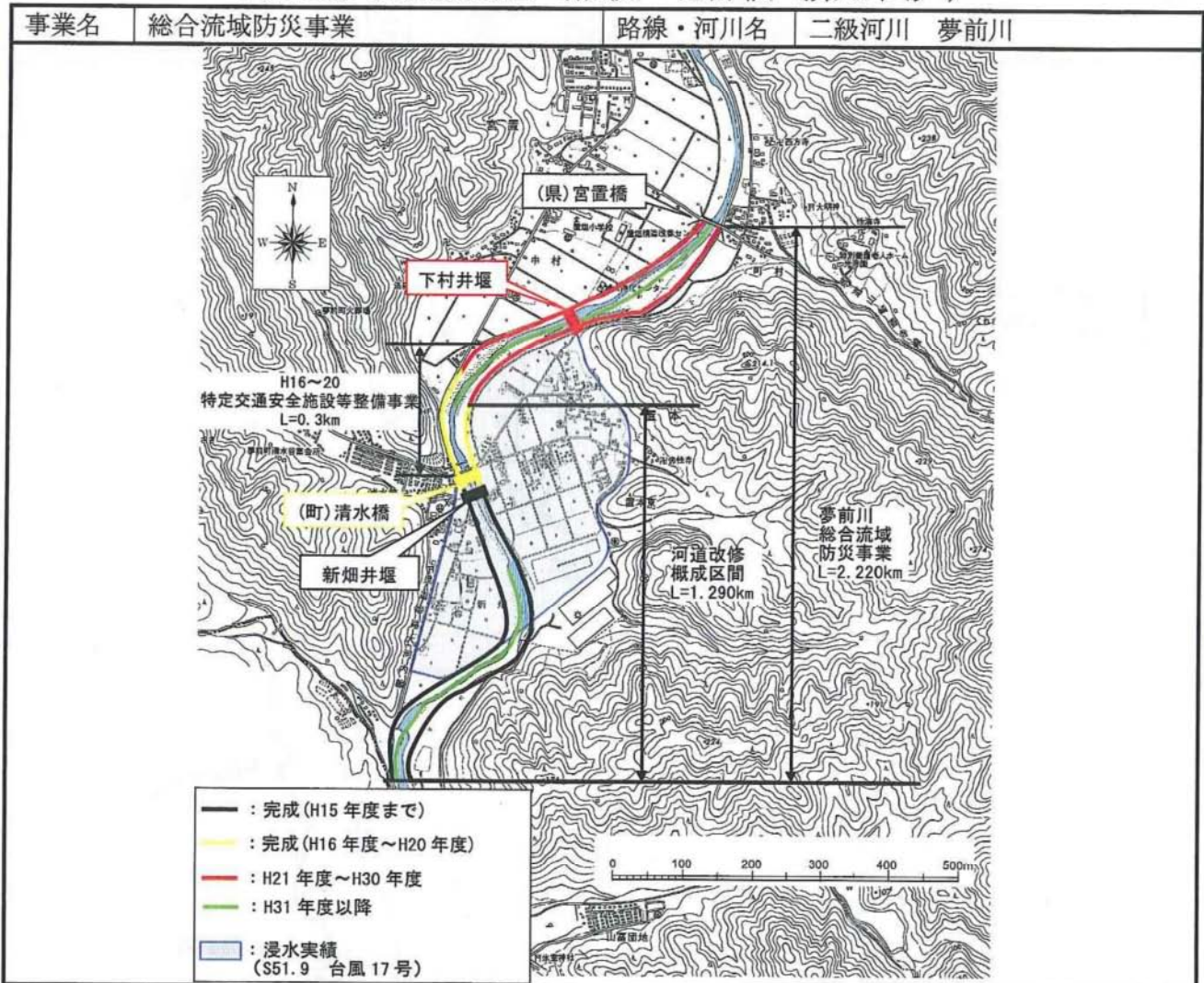
継続事業評価調書  
【河川事業】

土木局 河川整備課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課 森脇康仁 (課長補佐兼治水係長 中村浩康)	内線	4408 (4437)
事業種目	河川事業	事業採択年度	H1	現計画	再評価時点
事業名	二級河川夢前川水系 夢前川 総合流域防災事業	着工年度	H1	総事業費	25.8億円
		再評価年度	H10(前々回) H15(前回)	内用地補償	4.0億円
事業区間	姫路市夢前町置本～宮置			完成予定年	H32
所在地	姫路市夢前町置本～宮置			進捗率 (内用補進捗率)	72%(100%)
				残事業費	7.1億円
事業の目的		事業内容			
当該地区に甚大な浸水被害(浸水面積35ha、浸水家屋148戸)をもたらせた昭和51年9月台風17号と同程度の洪水を安全に流下させるべく河川改修を実施し、地域住民が安全で安心して生活できる環境を確保するものである。		現計画		前回(H15)	
		・治水安全度	1/20	・治水安全度	1/20
		・計画流量	720m <sup>3</sup> /s	・計画流量	720m <sup>3</sup> /s
		・整備延長	2,220m	・整備延長	2,220m
		・主要工種	築堤、掘削、護岸、 橋梁1橋、井堰2基	・主要工種	築堤、掘削、護岸、 橋梁1橋、井堰2基
〔負担割合 国:1/2, 県:1/2〕					
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>当河川は河口より約11km区間が姫路市により改修され、中心市街地の治水安全度は確保されているが、当該箇所も今後市街化が進む可能性が高く、浸水被害を防止する必要性は高まっている。</li> <li>平成16年には、兵庫県内で多大な浸水被害が発生したことから、当該地区においても河川改修促進の地元要望が高まっている。</li> <li>平成16年災復旧・復興事業への重点配分の影響により、事業期間を延伸する。</li> <li>井堰の形式変更等により総事業費を見直す。</li> </ul>				
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>下流から改修を進め、全体2.220kmの内1.290kmが概成しており、橋梁1橋(清水橋)、井堰1基(新畑井堰)の改築が完了。</li> <li>残事業は河床掘削、上流部0.930kmの護岸整備及び井堰1基(下村井堰)の改築となっている。</li> <li>これまで進めてきた改修事業により、平成9年や平成16年出水においても浸水被害は発生していない。</li> </ul>				
評価視点	評価結果の説明				
(1) 必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該地区は、過去多くの洪水に見舞われ、既往最大の雨量を観測した昭和51年9月台風17号では、多大な被害(浸水面積35ha、床上浸水45戸、床下浸水103戸)が発生している。</li> <li>現在までに、全体2.220kmの内、約1.290kmの流下能力を概ね確保したが、残る区間の流下能力は低く、引き続き河川改修を行う必要性は高い。</li> </ul>				
(2) 有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>費用便益比B/C = 2.4</li> <li>河川改修に対する地元協力体制など、事業執行環境は整っている。</li> <li>(町)清水橋の上流右岸側では(県)姫路大河内線の特定交通安全施設等整備事業と連携して右岸側の整備を実施することで効率的な事業執行が可能である。</li> </ul>				
(3) 環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>井堰改築にあたっては、魚類等の遡上の妨げとならない様に魚道整備を行っている。</li> <li>護岸整備については、植生ブロックによる植生の早期回復を行い生態系に配慮している。</li> </ul>				
(4) 優先性	<ul style="list-style-type: none"> <li>残り事業区間は流下能力が低く、沿川に人家もあることから事業の優先性は高い。</li> </ul>				
再評価の結果	事業継続	左の理由	上記の理由により、事業継続が適当である。		

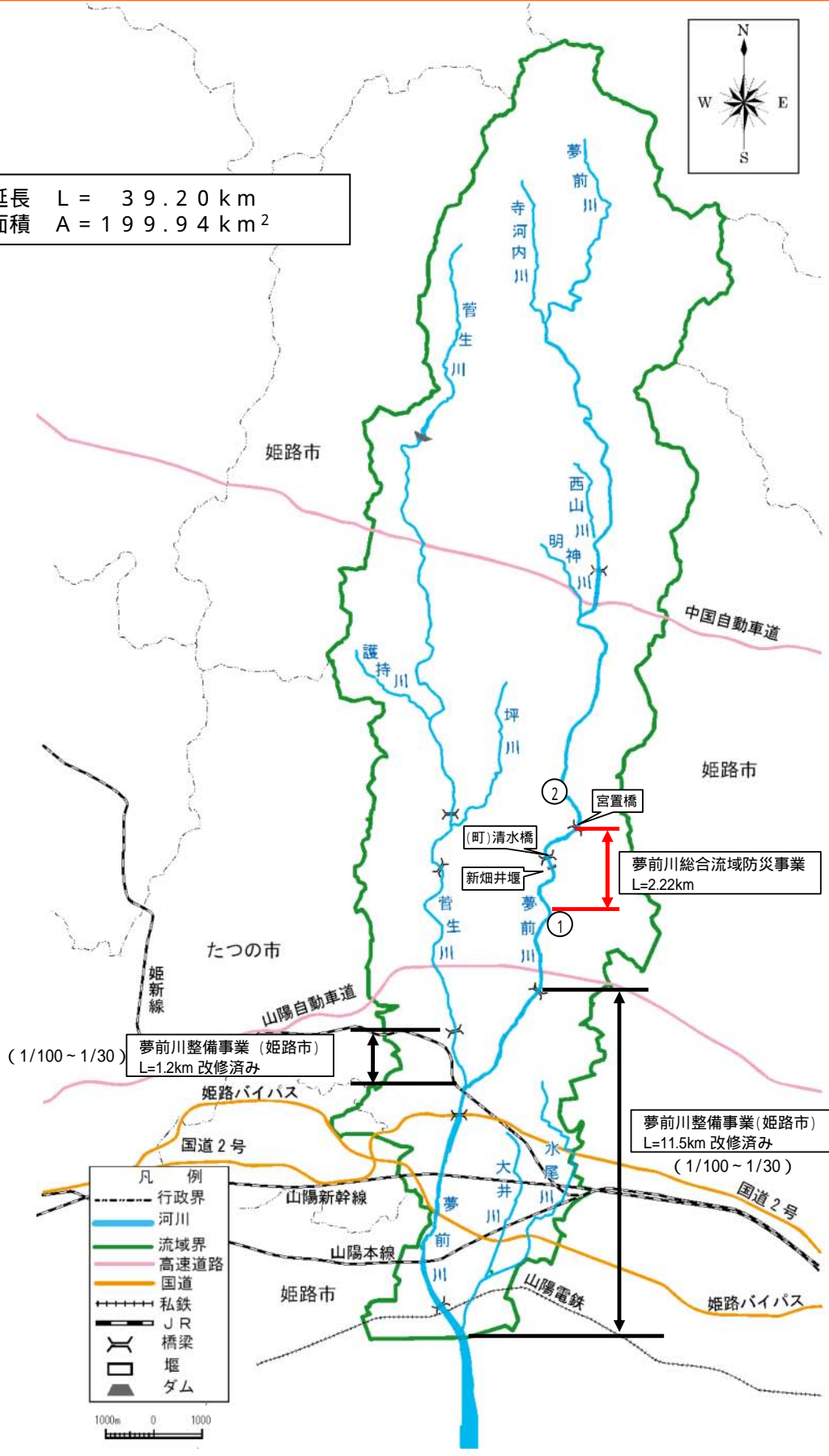
事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）



	事業進捗状況・予定	整備効果
全体	<p><b>H1~H32年度 32年間 【事業費=25.8億円】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体延長 L=2.220km</li> <li>・計画流量 Q=720m<sup>3</sup>/s</li> <li>・整備概要 掘削：95千m<sup>3</sup>、築堤：44千m<sup>3</sup> 橋梁：1橋、井堰：2基</li> </ul>	
前回再評価まで（実績）	<p><b>H1~H15年度 15年間 【事業費=15.3億円】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画区間下流端～新畑井堰において、築堤及び護岸整備が完了。</li> <li>・井堰1基（新畑井堰）の改築が完了。</li> </ul>	事業区間下流端～新畑井堰 1,150mの築堤が完了。
過去5年間（実績）	<p><b>H16~20年度 5年間 【事業費=3.4億円】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新畑井堰～清水橋直上流において、築堤及び護岸整備が完了。</li> <li>・橋梁1橋（清水橋）の改築が完了。</li> </ul>	事業区間下流端～清水橋 1,290mの築堤が完了。
今後12年間（予定）	<p><b>H21~32年度 12年間 【事業費=7.1億円】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下村井堰の改築及び残区間の築堤・護岸整備を優先し、完了後に全事業区間の河床掘削を実施することで、事業区間全体の流下能力を確保する。</li> </ul>	H32年度完成予定
今後10年間の整備目標	<p><b>H21~H30年度 【事業費=6.5億円】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下村井堰の改築及び残区間の築堤・護岸整備が完了する。</li> </ul>	下村井堰のネック部を解消するとともに事業区間全体の築堤・護岸整備が完了。

# 流域概要図

・ 流路延長  $L = 39.20 \text{ km}$   
 ・ 流域面積  $A = 199.94 \text{ km}^2$



# 出水状況(H2台風19号)

事業区間下流端付近



事業区間上流端付近



# 整備状況(清水橋)

整備前



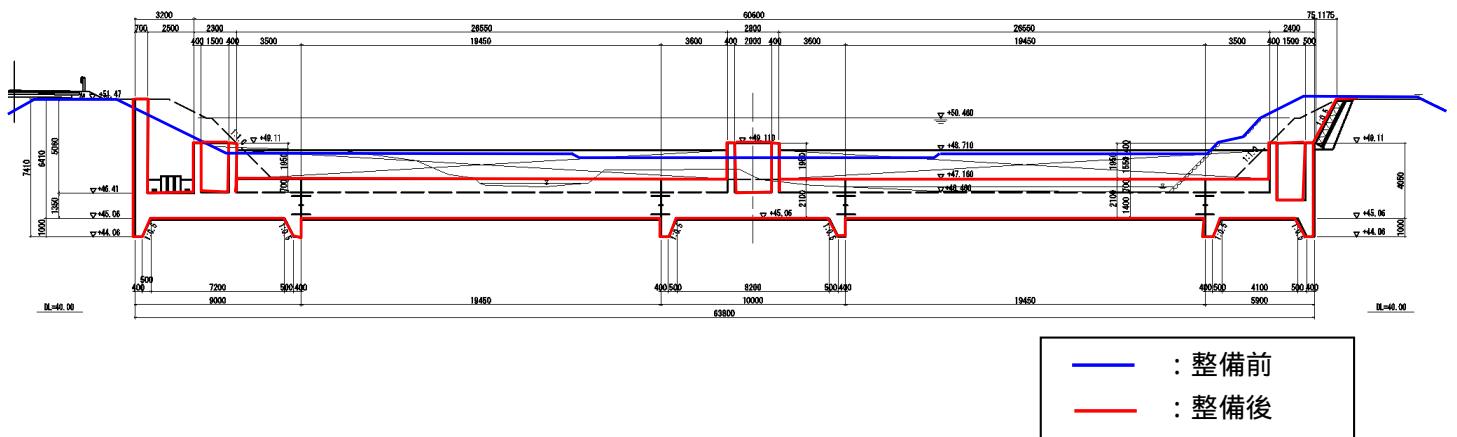
整備後



# 整備状況(未整備箇所)



## 標準断面図



## 二級河川 夢前川 総合流域防災事業スケジュール

	H15まで	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
用地買収	■																	
掘削	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
築堤、護岸	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
橋梁	■	■	■															
堰	■	■		■	■	■		■	■	■								

### <凡例>

- 当初計画
- 実施計画

## 二級河川 夢前川 総合流域防災事業の費用便益比

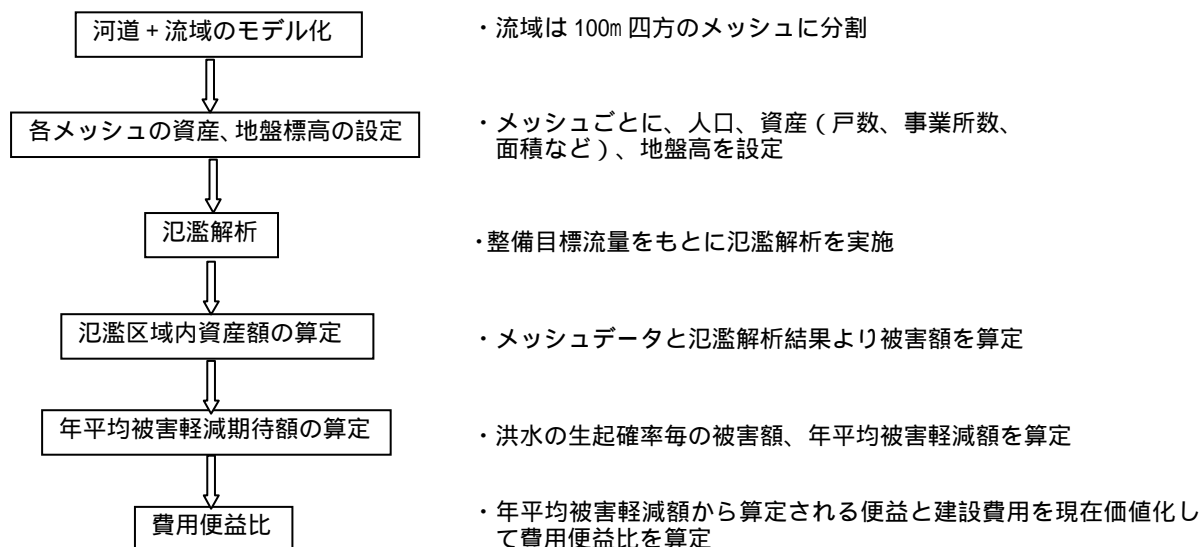
### (1) 費用便益比の考え方

- 1) 便益 = 治水事業を実施することによる被害軽減期待額を現在価値化  
 被害額 = 一般資産被害 (家屋、家庭用品、事業所償却資産、農漁家償却資産等)  
 + 農産物被害 + 公共土木施設等被害 + 営業停止被害 + 応急対策費用
- 2) 費用 = 「建設費 + 維持管理費」を現在価値化

### (2) 算定に用いた資料

治水経済調査マニュアル (案) 国土交通省河川局 平成20年2月

### (3) 便益 (B) の算出方法



### (4) 費用便益 (B / C)

便益 (B)		費用 (C)			B / C
総便益 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)	
8,819.5	確率規模 1/20 の降雨に対して ・ 浸水戸数 68 戸の解消 ・ 浸水面積 43ha の解消	3,671.9	3,259.7	412.2	2.4